年次活動報告書発刊に寄せて

熊本大学工学部では、平成 12 年度（2000 年度）から毎年、本学部及び大学院自然科学研究科（工学系）の年次活動報告書（年報）を刊行して参りました。本年も、本学部評価情報専門委員会ならびに各学科のご尽力により、ここに第 14 号が完成いたしました。

本報告書には、平成 25 年度（2013 年度）における教育、研究、社会貢献、管理運営など各分野における所属教員の多彩な活動の実績や、部局運営に関する組織としての取り組みを、フォーマットを固定し、時系列的にも比較が可能な形でまとめております。学外の方々に組織としての活動状況を的確にご理解いただき、大学運営について指導助言をいただくための情報公開が本報告書作成の目的ですが、同時に、教職員自らがその活動を客観的に振り返り、次期の活動を企画検討する際の資料として活用されることも意図しております。是非とも内容をご一覧いただき、ご活用いただけましたら幸甚に存じます。

さて、工学部及び自然科学研究科では、第二期の中期目標･中期計画期間（平成 22～27 年度）では、「研究拠点大学を目指し、国際化を推進する」とした本学の目標に沿って、また第一期の成果を踏まえて、教育研究、社会貢献、さらには管理運営に新たな息吹を吹き込むべく活動を展開しております。

教育面では、教育の質を保証する取り組みとして、6 つの学科が外部審査機関から ISO14001 や JABEE などの国際水準の教育プログラムの認定を継続して受けています。このうち、ISO14001 教育プログラムは 10 年間継続したということで日本検査キューエイ株式会社から表彰を受けました。ものづくり教育では、「革新ものづくり展開力の協働教育事業」(平成 23～26 年度)により、これまでの体感型授業や問題発見･解決型授業の開発･拡充の他に、学部、学年、学内、国内の枠を越えて、協働し、競争するものづくり教育を実践しています。例を挙げますと、韓国東亜大学と協働してスタートさせました国際混成ものづくり教育プロジェクトは、ユニークな取り組みとして全国の大学から注目されています。また、「理数学生応援プロジェクト」は事業としては終了しましたが、エリートを育てる為の「国際グローバル人材教育コース」に引き継ぐ予定にしております。さらに、国際化を意識して、Native による気軽な英会話実践教室（Evening English Class, EEC）、学期毎に実施される英語外部試験（TOEIC-IP）がスタートしました。このことで、学生諸君が外部コンテストや海外研修等に積極的に参加する機会が増え、学外受賞などの成果も挙がることを期待しています。

研究面では、平成 25 年 4 月 1 日から国際的に卓越した研究拠点として「パルスパワー科学研究所」が開設され、新たな研究展開を目指しています。また、地域結集型研究開発プログラム（平成 18～24 年度）の採択を受けた *KUMADAI* マグネシウム研究グループは、本学を核とする国際研究コンソーシアムの構築、企業への製品開発用材料の提供や「先進マグネシウム合金国際研究センター」の設置など、飛躍的な成果を挙げています。さらに、「減災型社会システム実践研究教育センター」も設置され、地域の災害時における拠点となることを目指しています。これらに続く研究グループとして、5 つの研究コアからなる革新研究加速化プラットホーム助成制度、さらには若手研究者を育てる革新研究加速化研究助成制度もスタートしました。このような状況下で昨年 8 月に、文部科学省から「研究大学強化促進事業」に採択され、「研究拠点大学（全国 22 研究機関、RU22）」として新たな頁を開くことができました。

最後になりますが、大学には今、中教審答申や大学実行プランに述べられているように、様々な面での改革が求められ、学部学科の強みや特徴を活かしたグローバルに活躍できる人材の育成や社会的な役割を果たすことが期待されています。この一貫として、工学部は平成 25 年 12 月にはミッションの再定義を公開しました。これまでの実績や蓄積を踏まえて、その教育力や研究力に一層の磨きをかけ、世界水準の教育と国際的に卓越した研究の実践に努力したいと思っております。今後とも、本学部ならびに本学の活動に対し、ご理解とご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

平成 26 年 8 月

熊本大学工学部長　　村山　伸樹